

「心をかたちに」～言葉と行動、思いやりと支え合い～



緑野

札苗中学校学校だより
令和7年度第4号(493号)
令和7年(2025年)
12月1日発行
<http://www.satsunae-j.sapporo-c.ed.jp>



札苗フェスティバル

今年度の札苗フェスティバルは、開校50周年行事として、例年同じ日に行っていた総合発表会と合唱コンクールを別日程で行いました。

10月14日に行われた総合発表会では、1年生は「地域探究学習」、2年生は「職場体験学習」、3年生は「北海道の未来」について調べたことや学んだことについて、各学級の代表者が発表しました。

10月31日には札幌コンサートホール Kitara を会場に、開校50周年記念式典と合唱コンクールを開催しました。いつもと違う大きな舞台での合唱ということで緊張もありましたが、どの学級も夏休み明けから重ねた練習の成果を発揮して、素晴らしい合唱をホールに響かせることができました。最後には吹奏楽部の演奏もあり、会場全体が盛り上がりいました。当日ご来場いただいた皆様、ありがとうございました。



初めての札苗フェスティバル

1年2組 OO OO

初めての札苗フェスティバル。どんなことがあるか不安や楽しみがあった。合唱コンに関する初めの授業は一番重要かもしれない「曲決め」。たくさんの曲を聞いたが、一つ「これだ!」という曲があった。それが『明日へ』。この曲の明るい曲調や未来への希望をもつような歌詞。まさに1年2組にぴったりの曲だった。

曲が決まって初めての練習。音もズれていて全然ダメで、僕のいるアルトパートは声も出なかった。しかし、それから授業での全体練習で合わせて、指揮者や伴奏者が改善点を指摘してくれたり、放課後練習でもパートリーダーが引っ張ってくれたりして、何度も練習を重ねるうちに上達していった。

そして迎えた本番。2組の発表は3番目。順番が来て歌い出し、最後まで歌い切った。2年生、3年生、吹部の演奏が終わりついに発表の時。みんなドキドキしていたけれど、金賞発表の時「2組」とコールされた瞬間、歓声が沸き上がった。初めての合唱コンクールで、最高の結果になり嬉しかった。最初で最後の金賞にならないように、来年も頑張りたい。

札苗フェスティバルを終えて

2年4組 ○○ ○○

私が札苗フェスティバルの取り組みで頑張ったことは、自信をもって声を出すことです。合唱はみんなが声を出さなきゃ合唱とは言えないし、自分も声を出して歌って金賞を取った時はとても嬉しいし、頑張ったかいがあったと思えるからです。ですが、自信をもってというのがとても難しかったです。自分はみんなの前で歌を歌うのは苦手だし、大きな声を出すのも苦手です。それに、自信をもつのは、練習をとにかくたくさんして音が合っているか確認したり、他の人も声を出してくれると思って勇気をもったりしなくてはいけないからです。だから私は学校で練習している時にたくさん意識をして、家では時間がある時に曲を聞いて頑張りました。

私が思った今後の課題は、学級全体で集中することです。今回の合唱の練習では、話している声が大きかったり、人数が多くなったりして、指揮者などが指示しているのに聞こえないことがあり、注意されることが多くありました。最後のほうは少しそくなりましたか、歌い終わったらすぐに動いたり、話したりする人がいて、毎回気になっていました。次に学級でやることがあつたら、みんなで集中することを大切にしたいと思いました。



札苗フェスティバルを終えて

3年3組 ○○ ○○

夏休み中にクラス全員が歌詞やメロディーを覚えてくるはずでしたが、ほとんどの人が覚えていませんでした。そんなところからスタートした合唱でしたが、音楽の授業で練習を重ねるにつれて、皆も少しずつ危機感を感じ出しました。10月の中旬に差し掛かったところで、やっと全員のやる気が入りました。6時間目の総合の学習の時間では、合唱プロジェクトメンバーが中心となってパート練習を粘り強く頑張り、放課後練習も本番が近づくにつれて、多くの仲間が残って一生懸命練習する人が増えていきました。

本番当日もギリギリまで全体練習を繰り返しました。結果は「金賞」。3組の全員が団結し、困難に勝ち、金賞を目指す。という意味を込めた「TeamKK」のクラス目標を達成できて嬉しかったです。今までクラスで練習してきた中で、メリハリが見られなくてダラダラして先生に叱られる場面もありましたが、目標をもつこと、努力する大切さ、集中力を保って気持ちを入れて歌うことなどを学ぶことができました。最後にみんな笑顔で終わることができて本当に良かったです。たくさんの学びがあった札苗フェスティバルでの経験を忘れず、今後の生活に繋げていきたいと思います。